

# EXERCISE 16

〔C. 産科疾患の診断・治療・管理〕

## 13. 産科感染症の診断と治療

**Q 242** 絨毛膜羊膜炎(CAM)に関して、誤った記載の組み合わせ 1つを選びなさい。

- 1) 早産の原因として重要である
  - 2) 早産児の周産期死亡率は、CAM以外の原因による早産児と変わらない
  - 3) 主な感染経路は、膣・頸管からの上行性感染である
  - 4) 治療の第一選択は膣洗浄と抗菌剤膣錠の投与である
- a) 1-2 b) 2-4 c) 2-3 d) 3-4 e) 1-4

**Q 243** 細菌性膣症(bacterial vaginosis)に関して正しい記載 1つを選びなさい。

- a) トリコモナス感染症は、細菌性膣症に含まれる
- b) 膣内のpHは正常より低下する
- c) 帯下の増量、膣の灼熱感を主徴とする
- d) 妊婦の15~20%に細菌性膣症が認められる
- e) 新生児髄膜炎の原因として重要である

**Q 244** 細菌性膣症(bacterial vaginosis)の所見として適切なものを2つ選びなさい。

- a) 黄色泡沫状の帯下
- b) 膣分泌物中のClue cell
- c) 膣分泌物のアミン臭(魚臭)
- d) 膣分泌物培養におけるC. albicansの存在
- e) 子宮傍結合織に限局した有痛性の硬結

**Q 245** 子宮内感染を示唆する所見とはいえないものを2つ選びなさい。

- a) 治療抵抗性の子宮収縮
- b) 胎便による羊水混濁
- c) 胎児の頻脈
- d) 母体末梢血の白血球増多
- e) 頸管粘液中顆粒球エラスターゼ陽性

(解答は研修コーナー最終頁をご覧ください。)

**Q 246** 産褥子宮内感染症に関して、誤っている組み合わせを1つ選びなさい。

- 1) 帝王切開，遷延分娩はリスク因子となる
  - 2) 感染は複数の細菌による混合感染の形をとることが多い
  - 3) 子宮の復古は良好である
  - 4) B群溶血性連鎖球菌(GBS)は主要な起因菌のひとつである
  - 5) 卵管性不妊の原因となることは少ない
- a) 1—2 b) 2—3 c) 3—4 d) 4—5 e) 1—5

**Q 247** 産褥熱の起炎菌の中で最も検出頻度の高いものはどれか。

- a) 結核菌
- b) 黄色ブドウ球菌
- c) 大腸菌
- d) 淋菌
- e) 緑膿菌

**Q 248** 敗血症性ショックの病態で誤っているものはどれか。

- a) 末梢血管抵抗の増加
- b) 代謝性アシドーシス
- c) 心拍出量の増加
- d) 乏尿
- e) 低酸素血症

**Q 249** Toxic shock syndrome に関して誤っているものはどれか。

- a) 黄色ブドウ球菌が起炎菌である
- b) 高熱を認める
- c) 壊死性筋膜炎がみられる
- d) 低血圧が存在する
- e) 激しい筋肉痛が存在することがある

**Q 250** 妊婦に伴う尿路の生理的変化について誤っているものはどれか。

- a) エストロゲンの増加による尿路の平滑筋弛緩作用が認められる
- b) 尿管の拡張は右尿管優位である
- c) 右卵巣静脈の圧迫による右尿管の圧迫が存在する
- d) 膀胱容量および残尿量が増加する
- e) 膀胱尿管逆流が起こりやすくなる

**Q 251** 血栓性静脈炎に関して誤っているものはどれか。

- a) Homans 徴候を認めることがある
- b) 産褥数日から1週間後に生じることが多い
- c) 肺血栓塞栓症を併発する場合がある
- d) 深在性血栓性静脈炎の診断は比較的容易である
- e) 治療として、抗菌療法，抗凝固療法，線溶療法がある

(解答は研修コーナー最終頁をご覧ください。)

**Q 252** 児への感染経路として、胎内感染(経胎盤感染)の頻度が多い母体感染症はどれか。2つ選べ。

- a) 尖形コンジローム
- b) HIV 感染症
- c) B型肝炎
- d) トキソプラズマ症
- e) ATL

**Q 253** 妊婦感染症の診断・治療について、正しいのはどれか。

- a) 淋菌は、子宮頸管検体をグラム染色・検鏡することにより容易に診断される
- b) クラミジア感染症に対して、ニューキノロン系薬剤を用いた
- c) 尖形コンジロームに対して、ポドフィリンアルコール溶液を外用した
- d) トキソプラズマ特異的 IgM 抗体が陽性なので、初感染と診断した
- e) 梅毒血清反応の STS 法(-)・TPHA 法(+)であったので、初期梅毒と診断した

**Q 254** 妊娠初期に風疹抗体検査(HI)を行った。その結果の解釈について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a) 抗体価が8倍未満であったので、風疹ワクチン接種を勧めた
- b) 抗体価が128倍で、風疹ワクチン接種歴があったので、再感染の心配はないと話した
- c) 抗体価が32倍で、風疹感染・風疹ワクチン接種の既往歴がないため、初感染と診断した
- d) 抗体価が256倍なので、2週後に特異的 IgM 検査を行い、陰性であったので初感染を否定した
- e) 抗体価が64倍、2週後の再検査が128倍なので初感染を疑った

**Q 255** 胎児・新生児への感染について、正しいのはどれか。

- a) 妊娠10週に風疹に再感染したので、先天性風疹症候群の児を出生する頻度は高い
- b) 臍帯中のトキソプラズマ IgM 抗体が陰性であれば、胎児感染は否定できる
- c) サイトメガロウイルスに胎内感染した児の大部分は、生後に症状を呈する
- d) HIV の胎児への感染率は、母体血漿中 HIV-RNA 量とは無関係である
- e) 新生児ヘルペスは、予後不良である

**Q 256** 母子感染予防の観点から、誤っているのはどれか。2つ選べ。

- a) 2週間前に性器ヘルペスを初感染初発していたので、分娩方法は帝王切開とした
- b) HIV 感染症だが、産科的適応がない限り経膈分娩の方針とした
- c) HTLV-1感染症なので、人工乳哺育を勧めた
- d) 妊娠初期の HBe 抗体が陽性なので、児に HB ワクチンは投与しなかった
- e) サイトメガロウイルス抗体が陰性なので、妊娠中の手洗いの励行を勧めた

(解答は研修コーナー最終頁をご覧ください。)